

めざせ、心のバリアフリー

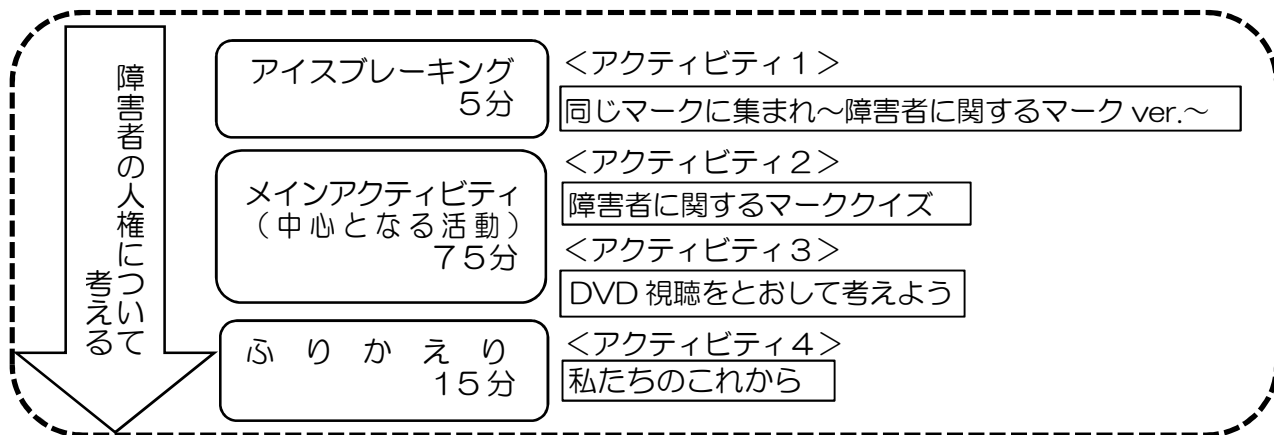
障害者の人権

ねらい

比較的外見からわかりにくいと思われる障害に着目し、それによって生じる困難さの一部を、DVD 視聴をとおして理解するとともに、誰もが共に楽しく暮らせる地域を実現するために必要な関わり方について考えます。

時間	95分	人数	1グループ4～6人
準備物	ワークシート①②、資料、障害者に関するマークカード DVD「アイム ヒア 僕はここにいる」(54分) 企画・製作：大阪府教育委員会		

学習の流れ



<アクティビティ1> 同じマークに集まれ ～障害者に関するマーク ver.～

活動のねらい

グループづくりをとおして、日頃から目にしていてる障害者に関するマークに関心を持つことができます。

活動の進め方

- 1 一人一枚カードを受け取ります。
- 2 同じマークで集まります。
- 3 グループができたら、自己紹介をします。
- 4 自分たちが持つカードについて、知っていることをグループ内で話し合います。



実施の際のポイント

グループづくりの過程で、和やかに交流が図られるようにします。

対象者に合わせて、第3章29ページの「合わせてぴったり」に替えることも可能です。

自己紹介をし、障害者に関するマークについて話し合うことで、お互いを理解し、協力して学習していこうとする雰囲気がつくられるようにします。

<アクティビティ2> 障害者に関するマーククイズ

活動のねらい

普段から目にする障害者に関するマークについて、その意味を確認するとともに、外見からわかりにくい障害について着目します。

活動の進め方

- 1 障害者に関するマークについてクイズを行います。
 - (1) 個人でワークシート①に記入する。
 - (2) 全体で正解を確認する。
- 2 外見からわかりにくい障害について考えます。
 - (1) 外見からわかりにくい障害に関するマークを選ぶ。
 - (2) 選んだマーク以外に外見からわかりにくい障害はないか、グループまたはペアで考える。
 - (3) 本日の学習のねらいを確認する。

クイズの答え 左から 上段 ②⑦④①⑤③⑥
下段 キイウオアカエ

実施の際のポイント

クイズは、個人で解答するが、自信がなければ相談し合ってもよいことを伝え、安心して学習に取り組める雰囲気づくりをします。

様々な障害の特性や、その困難さを取り除くための支援を紹介する中で、内部障害などの外見からはわかりにくい障害があることに気付かせます。

外見からわかりにくい障害は、一見してその困難さが周囲に伝わりにくいため、地域社会の中で適切な支援を受けることが難しい場合もあることを説明します。

障害には個人差があることを踏まえつつ、どのような支援が考えられるかを学習者に問いかけます。

<アクティビティ3> DVD視聴をとおして考えよう

活動のねらい

DVD視聴をとおして、外見からわかりにくい障害があることによって生じる困難さを理解し、必要な支援について考えます。

活動の進め方

- 1 DVDを視聴します。
<資料名>「アトム ヒア 僕はここにいる」(54分)
(下都賀地区視聴覚ライブラリー所蔵)
- 2 DVDを見た感想を話し合います。



実施の際のポイント

外見からわかりにくい障害をテーマにしたDVDを視聴することと、その後、感想を話し合うことを伝えます。

感想を話し合う際に、主人公を支える周りの人の関わり方にも着目するよう促します。

<アクティビティ4> 私たちのこれから

活動のねらい

共に楽しく暮らせる地域を実現していくため、「自分はどのようなことができるか」について考えます。

活動の進め方

- 1 資料により障害者差別解消法や、合理的配慮の例、ヘルプマークについて確認します。
- 2 共に楽しく暮らせる地域をつくるために、「自分はどのようなことができるか」について考えます。
 - (1) 自分の考えをワークシート②にまとめる。
 - (2) グループ内で発表する。
 - (3) 全体で共有する。

障害について、理解のある人を地域に増やすことが、障害者差別を解消するとともに、豊かな地域づくりにつながることを伝えます。

共生できる地域の実現には、障害があってもなくても互いに尊重しあい、孤立させない関わりが大切であることを伝えます。

実施の際のポイント

外見からわかりにくい障害があることなどにより、様々な支援を必要としていることを示すマーク（ヘルプマーク）を紹介します。また、導入する自治体や実際に街の中で使用する人が増えていることを伝えます。

障害者差別の解消に向け、障害のある方と
「対話をする」
「相互に理解する」
「協力して工夫する」
ことが大切であることを伝えます。

「障害者は、誰かに面倒を見てもらわなくてはならない」という思い込みが、社会的障壁になってしまう可能性があるため、同じ目線で関わることの大切さを伝えます。

参考（DVD あらすじ紹介）

平成 18 年度人権教育啓発映画「アイム ヒア 僕はここにいる」 企画・製作 大阪府教育委員会

バイク好きの竹内優希は父親の寛治と母親の仁美との3人暮らし。子どもの頃から忘れっぽくて、あわて者の優希に仁美はいつもハラハラさせられる。

社会人になった優希は初日から遅刻する。配属された検査課でも検品の際に大きな傷を見逃したり、頼まれたことを忘れていたりすることがたびたび重なり、次第に職場で孤立していく。総務部の白鳥だけは優希をかばってくれるが、顧客情報が入った重要なデータをゴミとして捨ててしまい、総務部長に「役立たず！」と罵られてしまう。

小学校時代も優希はクラスで孤立していた。授業中に落ち着きがないうえに忘れ物も多く、掃除をさぼることもしばしばあり、仁美は担任の香山に何度も呼びだされる。級友からいじめにあった優希は、学校が嫌いになっていた。

香山は、教員研修で「発達障害」について学び、優希のことを思い出して悩む。「この障害を、理解と支援を必要とする個性としてとらえ、いろいろな人がともに生きられる方法を考えることが私たちの役割」という講師の話聞き、香山は竹内家を訪ねる。「発達障害」について説明し、優希に「自分がどんな特性や困難を持っているか知っておくことが大切」だと伝える。








優希は自分のことをもっと知るため病院に行く決心をする。診断の結果は” 広汎性発達障害”。しかし、会社には言い出せず、職場での状況はさらに悪化していく。結局、辞表を出すことになった優希はやる気も自信もなくしてしまう。

仁美の勧めで、障害者就業・生活支援センターを訪れた優希は、作業所で障害があってもいきいきと働く個性的で魅力的な人たちと出会い、「他の人と違っていてもいいんだ」と実感する。

自信を取り戻した優希は、自分の特性に適した職業につくためのアドバイスを受け、第一希望のバイクの修理販売会社に採用が決定する。新しい職場では優希を迎えるためにさまざまな対応を工夫し、一緒に働く仲間たちもあたたかく優希を支えてくれた。職場にすっかりとけこんだ優希はツーリングのイベント企画を担当することになる。そして、イベント当日。優希の後ろ姿を見送りながら、寛治と仁美は優希の世界ができてきていることを知る。

障害者に関するマーククイズ ～それぞれのマークの意味を考えよう～

下の からそれぞれ当てはまる記号を選んで記入しましょう。

							
名前	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
意味	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【名前】

- ① 耳マーク ② 障害者のための国際シンボルマーク ③ オストメイトマーク
 ④ 盲人のための国際シンボルマーク ⑤ ほじょ犬マーク ⑥ ハート・プラスマーク
 ⑦ 身体障害者標識（身体障害者マーク）

【意味】

- ア 身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）法の啓発のためのマークです。
- イ 肢体不自由であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークです。
- ウ 世界盲人連合で、1984年に制定された盲人のための世界共通のマークです。視覚障害者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられています。
- エ 外見からは分かりにくい「身体内部（心臓、呼吸機能、じん臓、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫機能）に障害がある人」を表すマークです。
- オ 聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークです。
- カ 人工肛門・人工膀胱を造設している人（オストメイト）のための設備があることを表すマークです。
- キ 障害者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。

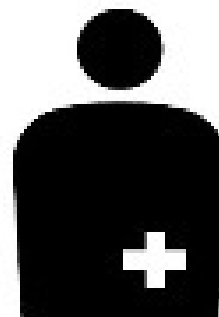
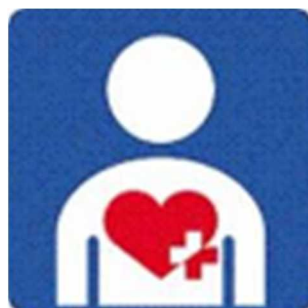
（内閣府HP「障害者に関するマークについて」より抜粋）

ふりかえりシート

～誰もが共に楽しく暮らせる地域を目指して～

- ここまでの学習を振り返って、「自分はどのようなことができるか」や感じたことを書いてください。

障害者に関するマークカード



○障害者差別解消法とは

(内閣府障害者差別解消法リーフレットより)

この法律は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的な事項や、国の行政機関、地方公共団体等及び民間事業者における障害を理由とする差別を解消するための措置などについて定めることによって、全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現につなげることを目的としています。

【2つのポイント】

①「不当な差別的取扱い」の禁止

国・都道府県・市町村などの役所や、会社やお店などの事業者が、障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。

②「合理的配慮」の提供

障害のある人は、社会の中にあるバリアによって生活しづらい場合があります。この法律では、役所や事業者に対して、障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること（事業者においては、対応に努めること）を求めています。

○外見からはわかりにくい障害の一つ【発達障害】によって生じる困難さへの合理的配慮の例

(栃木県保健福祉部障害福祉課「障害者差別解消のための道しるべ」より)

【いろいろな場面で】

- ・慣れない場所や本人のこだわりから、診察室に入れないうち医師が外に出て診察すること、また、店などに入れないうち、外でメニュー表やサンプルを見せて必要な商品の購入を手助けすること
- ・大勢の人がいる、音などが気になるためその場所で待つことができないとき、呼出器の活用や携帯電話への連絡、呼出時間を決めることなどにより、落ち着いたところで待つことができるようにすること

【学校や仕事で】

- ・入学式などのとき、見通しが持てるよう、下見を許可したり事前にスケジュールを説明したりすること
- ・生活や学習のために必要なものの持ち込みを許可すること
- ・あいまいな言葉の理解が難しい人に対し、具体的な言葉、写真や絵カード、模型などを用いて、具体的なイメージが持てるように説明すること

ヘルプマーク

ヘルプマークは、外見からわかりにくい障害があることなどにより、援助や配慮を必要としている人が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるマークです。



障害やバリアは、一人一人違います。障害者差別を解消するためには、障害のある方と「対話する」「相互に理解する」「協力して工夫する」ことが大切です。対話をして歩みよりながら、思い違いがないよう、必要な声かけや確認などをして、お互いの理解を深めましょう。

